

粕谷和夫の観察日記。タカオスミレが見たくて裏高尾の日影林道を歩き、小仏城山山頂茶屋に登ってきました（3月29日）。ナガバノスミレサイシン、エイザンスミレ、タチツボスミレ等も咲いていましたが、ここではタカオスミレが抜群でした。タゴガエルとウグイスの音がバックグラウンドミュージック、小仏城山山頂茶屋のなめこ汁が美味しかったです。

紅葉台



新聞

第238号
2026年
6月13日
発行人：関谷 孝

粕谷和夫の観察日記



4月1日、春雨の中の高月水田の休耕地です。昔であれば今頃はレンゲで染まる田んぼですが、今はレンゲが無くて寂しいです。レンゲに代わり、ホトケノザ（上）やナズナ（下）の野草が満開でそこに菜の花が咲く景色も悪くありません。

塩山駅の北にあるスモモの里・上条集落に行ってきました（4月3日）。スモモの花が満開で正に桃源郷の世界でした。写真の白い花がスモモの実を採る木で左後ろのピンクの花はハリウッドという品種の花粉採り用のスモモです。スモモはこの木の花粉を採って白い花の木の花に人工授粉しないと実は結実しません。



八王子市北野町にあるエコ広場の裏に清楚で可憐な花が咲いていました（3月28日）。調べてみたらシラユキゲシという中国原産の外来種であった。4枚の花びらの中心部に濃いオレンジ色の雄しべをつけている姿はケシを想起させます。繁殖力が旺盛で、日陰でもよく育ち、増え広がる性質があるとのこと。



八王子・湯殿川を歩いていて、私にとっては奇妙な花が河原に咲いていた。ネットで調べてみたらキバナズズシロとあった。これは野菜のルッコラの和名とのこと。ルッコラはイタリア料理の普及とともに日本で一般に知られるようになったとのこと、私には未だ馴染みがない野菜です。



春たけなわ、八王子・川口川の明治橋近くの明るい雑木林の遊歩道にイチリンソウが紫色のムラサキケマンに囲まれて咲いていました。左下の葉はイチリンソウの葉で若葉は食べられますが、猛毒を持つトリカブトと酷似しているので、素人が判断するのはとても危険です。



森に野鳥のさえずり 奄美大島

今、奄美大島に来ています。今日の地元紙にはルリカケスの記事が載っていました😊 奄美固有種のルリカケスやアカヒゲの写真の間近で撮りました。明日

から乞うご期待を！



4月6日～9日に奄美大島に鳥見に行ってきました、地球上で奄美大島・加計呂麻島・請島にのみ生息している固有種のルリカケスです。頭部から首にかけての鮮やかな瑠璃色と胸から腹の赤褐色のツートンカラーが美しく、「奄美の青い宝石」とも称されますが、この写真は、林の中で少し暗い場所だったので本来の色は出ていません。この写真を撮った直後にこの木のもう少し下の洞に飛び込みました。その洞が巣だったことに驚きました。



奄美の鳥・第2弾はアカヒゲです。この鳥も日本にしか生息しない固有種です。喉から胸にかけての黒い部分が髭のように見えることが和名の由来。スズメくらいの大きさの小鳥です。姿がすこぶる綺麗ですが、声も素晴らしく、音量豊かに「ピッ クララララ・・・」とか、「ピー ピョイ ピョイ ピョイ・・・」などの節で、澄んだ美しいさえずりの競演でした。こんなに綺麗で、美しい声の鳥に目の前で出合えて、奄美まで行った甲斐がありました。

奄美の鳥、第3弾です。奄美大島の田んぼに行ってみました。田植え直前の田んぼではセイタカシギ（写真上）、タカブシギ（写真下）が採餌中でした。セイタカシギはくちばしの先、手前のタカブシギはくちばしの付け根の所に飲み込む前の餌が啜えられているのが確認出来るでしょうか。この田んぼには他にアマサギ、クサシギ、コサギ、チュウサギ、バンなども来ていました。鳥達にとって田んぼは大切な食料基地ですよ。



奄美大島の夜の世界です。夜行性の生き物観察のため、山中の旧道にナイトウォッチングに出かけました。アマミノクロウサギは奄美大島と徳之島の2つの島だけに生息している日本固有種です。天敵のマングースの撲滅に成功したため、10年前の10倍以上に増えているとのことでした。写真の上は枯葉を啜えて道路に出てきたところ。幸運にも固有種のアマギヤマシギにも道路に出て来て採餌している姿を観察できました。暗い夜のため光量不足で清明な写真は撮れませんでした。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。